

調査レポート

令和3年3月期景気見通し調査

～回復は緩やかになるも、今後も続く予想～

調査概要

○調査時期
令和3年3月2日(火)～10日(水)

○調査方法 FAX・TEL・Googleフォームからの回答受付

○調査対象 会員小規模事業所500件

○回答数 271件 (回答率54.2%)

(D-I値とは…)
ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「良い」「上昇した」とする割合から「悪い」「下落した」とする割合を差し引いたもの。

業界・自社の景況

業界の景況は、前回調査時(令和2年12月期)の▲59.0と同値となった。一方で、先行D-I値は▲56.1と2.9ポイント改善の見通しとなった。先行D-I値から現在D-I値を引いた変化幅は平成30年9月調査以降、10期ぶりのプラスとなったことから、わずかながら景況感に回復の兆しが見える結果となった(グラフ1)。

自社の景況は、現在D-I値が前回調査時から4.0ポイント回復し、▲48.9となり、3期連続での回復となった。また、先行D-I値も▲49.3と現状のまま推移する見通しとなった。

売上高(受注高)

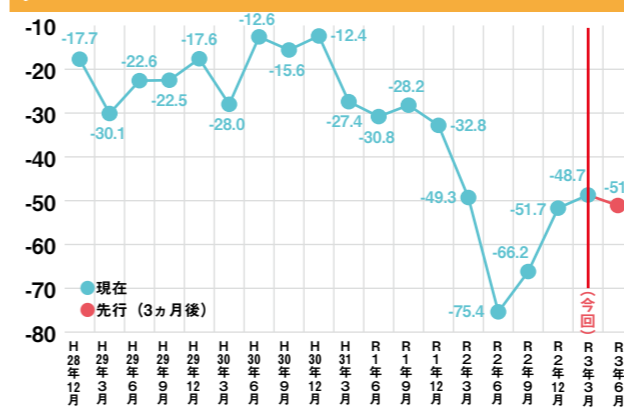
売上高は▲48.7と前回調査時(令和2年12月期)から3.0ポイント回復し、3期連続での回復となった一方で、先行D-I値は▲51.1と2.4ポイント下落の見通しとなった(グラフ2)。

業種別みると、小売業では2期連続して15ポイント以上の大幅回復となり、先行D-I値も回復予想となった。また、この動きに連動し、卸売業でも回復の予想となった。

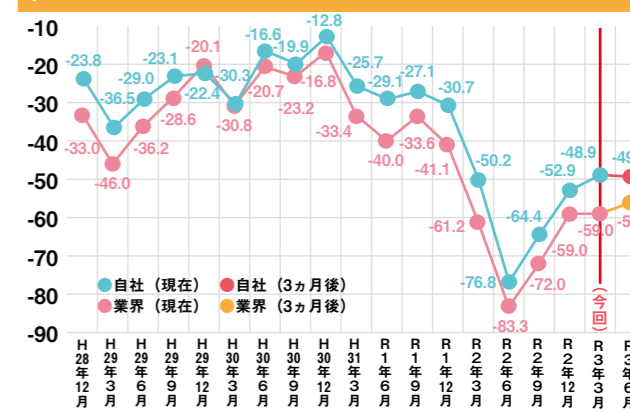
業種	前回調査との比較					
	業界の景況	自社の景況	売上高	販売価格	仕入価格	採算
全業種	黒	青	青	青	青	赤
製造業	赤	赤	青	青	青	青
建設業	青	青	青	青	青	青
小売業	青	青	青	青	青	赤
卸売業	赤	青	青	青	青	青
サービス業	赤	赤	赤	赤	青	赤

※青の矢印は改善を、赤の矢印は悪化を、黒の矢印は維持を表している。

グラフ2 売上高



グラフ1 業界・自社の景況



経営上の課題

経営課題(内的要因)では「受注・販売量不足」が46.6%で最も大きな経営課題であったが、令和2年12月期に続き3期続けてポイントが減少した。また、「新型コロナウイルスへの対応」は前回調査時より4.7ポイント減少し、3期連続での減少となった。一方で、「新技術・商品の開発」では6.1ポイント増えた(グラフ3)。

特別調査

「税込価格表示、インボイス制度への認知度・取り組み調査」

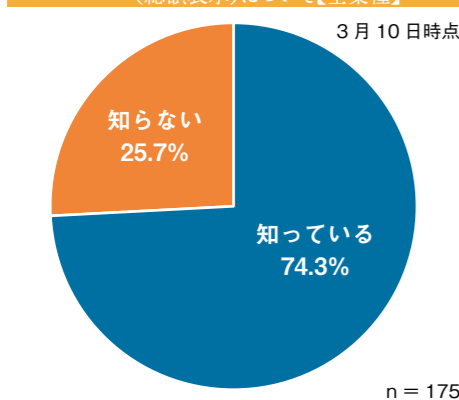
令和3年4月1日より始まる税込価格表示(総額表示)及び令和5年10月1日から始まる適格請求書等保存方式(インボイス制度)への認知度・取り組みについて調査した。

4月1日より税込価格表示が始まることを「知っている」と回答した事業所は74.3%となり、4分の3ほどの事業所が認知していた(グラフ4)。また、税込価格表示の準備が「既完了している」と回答した事業所は35.0%と4割に満たなかったが、「現在準備中」23.9%、「今から準備をはじめめる」34.4%と準備を進めている事業所を含めると、9割超の事業所が準備に取り組んでいる結果となった。

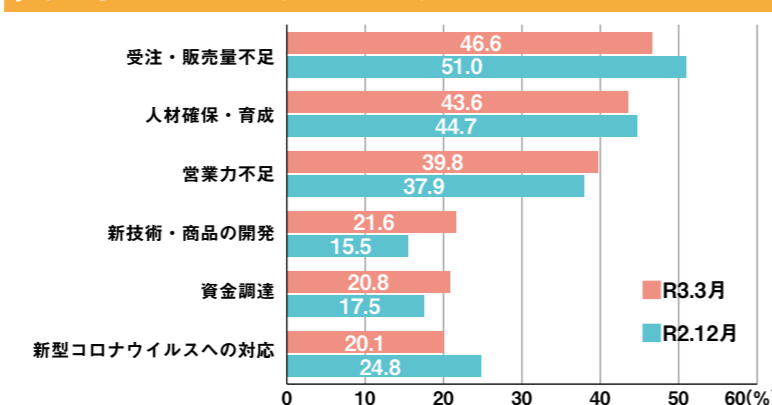
インボイス制度について「知っている」と回答した事業所は13.9%と1割強に留まった。

経営課題(外的要因)では、「新型コロナウイルスの影響」が5.8ポイント減少し、58.5%となったが、依然として一番の課題として挙げられた。しかしながら、令和2年6月期調査時の74.0%をピークに3期連続減少し、続く「同業他社との競争激化」53.8%と近い値まで落ち着いてきた。

グラフ4 R3.4.1からの税込価格表示(総額表示)について【全業種】



グラフ3 経営課題(内的要因)上位6位



お問合せ

福井商工会議所
金融・会計相談課

0776-33-8284

詳細の調査結果については、
上記までお問い合わせ下さい。

インボイス制度とは...

「適格請求書等保存方式」ともよばれ、事前に国税局や税務署で登録をうけた事業者が所定の要件を記載した請求書や納品書を発行、保存するという制度です。たとえば、取引先から原材料の仕入れを行う場合は、いづかの事業者から何の商品を購入し、その金額と消費税額がいくらだったのかを明確に示すうえで、適格請求書として残しておく必要があります。

詳しくは国税庁HPをご覧ください。